

一時の焦土とありぬとされば一あるを御入小使
 氏の衆人ともいふ東の志の精舎に仮居し
 わりし西の彼道人の母の妻のたれが衆人者
 子の衆にあくともさる程に人いづくいふ人を
 さけあつらわと同たれが人笑てあつらん
 とさく圓の茶盆とて教と一が思ふとも
 芳とぬれが香あつりの柳丸のまゝ教とさく
 琵琶弾とてありぬるが那支那の妾とけく
 意入浴とてたよりさるは且て湖中の風系

裳一只今冷りまきりしと焚くもたてて
 とらまの隠者ももりしと一され昔の名醫
 和氣何未が麻瓜形とて比表公あり柳
 先牛の煙の光とてく大火公志の影ひるん
 呆仏老人のありとく斜抱琵琶弾一腔 高山
 流水意深く怪来餘韻無亮響世次祝融仇帝部
 意も又生の桑とてく面白く又洛東のお軍塚も
 正月廿九日初とて是も又神の奇と爰示
 一人のさるぐ一されが猿ももりあつらん

鐵を化して金とするは人の愚く人の迷心と除
 布とすまふは人のやまふ世の始一と一定料
 一のひい一方民使樂に誇り永く泰平此厚
 縁と身んごりり驕奢の風はくは増も一綿
 繡を載して衣被を粧ひ珠玉を綴りて家
 室を粧ふ世の放室これごとく泥土とすりての
 ごとくかろくは泥んや糸師の風俗美は
 ちりちりして其美を所と志くは民族大賈
 人の心もさうさうり空乏の者尚是れ然優

んが心加 されは是速多めく明悟の人あり
 く浮樸の表示をやごはとくもは一濁の
 水はゆく一車菊の火を粧ふごとく一まを
 空しく灰塵とるる時より空を夫人今や
 聖君賢佐とあはれに清け一のひ徳の海に
 化し仁惠死骨に乃るべされはけまのやも世
 の汚濁は一愛し乾坤をあらくは驕奢
 乃浮華を拂ひ徳外の風を起しめんと
 有がくも目おくは空ををさめぬ

芥子園畫傳

五

其明さるる一物春末作以洛依依家
 此種歌人只小給矣次子との多しと急
 未以其作者也保少也さるる此修
 あり一介於此肉教そや老尾に記し
 其より此光景我ちの志しと澄春と
 本乃借神本此のさるる少記に次

洛陽

行

榎名氏

戊申正月晦日曉

焼出洛東描述

那出卷六

杜頭僅殘蛭子杜	寺前回祿建仁寺
青樓簾燃為紅樓	白人顏燻成黑人
整々火消行粧者	忠臣藏之画看帝
點々鐘鼓音声者	唐綯帳之急逃行
焰飛河西支市中	寺御幸麩屋富揚
衣新釜及西小川	越堀河至千本防
上自一条今出河	下過五条橋詰塘
四面八方煙簇々	千門萬戶炎昭々
奈原迴為烟道理	醒井前何不能肉

漆地地城地為席	五条大神天作榜
天神火粉如鋪錦	藥師燒斃似煮蛸
東燒西殘本願寺	上炎下免茶人房
个丸不止管大臣	醫主無効因幡堂
无恙為原野中鳴	右習桶取至失桶
火花雪散俊成社	心當夫見夕顏墳
本國塔婆五層覆	池坊本堂六角焚
銅駝坊中萬民驚	聚樂高踏千軒薰
行願寺僧皆着革	道成鈎鐘再成易

水火相水火共責

今日菴今日燒亡

妙覺角龍吟起雨

報息鳴虎嘯助颺

辰橋燒落木勢戾

西陳些些殘人介西

赫々赤者跣火燃

皎々白春殘去藏

抱兒夫婦河原泣

失親兄弟菜昌狂

箆司長持及鍋釜

弓鎗木小与錢箱

生來連綿難押分

人馬絡繹欲陷鳩

伏見男女伏不寢

大津老少大斷腸

黃鸝鳴燭各中之

豆腐葯弱平安美

勿負御藏一不燼

仁政施行米醇々

食今勿種喰付生

天命何盡天明春

右狂躰為記事錄而已

諸名家詩歌

次韻森氏京火之作 清人 蘓元端

祝融行令驅風車災却長安十萬家偌大

詩腸幸不燼吟遊依舊弄春花

京火記事 草堂

東門災厄及池鱗宮闕化煙花作塵應是

皇天改舊政降斯凶虐革斯良

災後之作

荆山

帝闕化塵後我徒未定居只携三尺劍无復一篇書即老時供食山僧或與蔬右花即投宿何必擇親疎

災後口占

道堅

忽配河東竈突難騰々火燭如流丸四隣乍救燃眉急羣支只知破膽寒携幼蹢々扶耄病忍飢咄々報平安未天不厭无家

宅亦艱空為天地寬

為海小

海月

夕の光よとて取返せ春の心よ此の心よ
あなよとて世は

御不慮なるは時をみ 芦花

今朝足るは流氷の系と如少くも後を
玉志乎此處

阿多御公辨は極に一橋は境たる
み
秋為

何れもいふ昔体さる人袖わけて見ると後にも
物れりまき

此れれりまき
高尹

心ゆく少くもあつた
中れりまき

のかきまき
一室

祿の心もあつた東よりの
まき

梅井内れりまき
まき

まき
まき

まき
まき

小車れりまき
まき

目一ありまき
まき

後れりまき
まき

小車れりまき
まき

万寶秘事記

貝糸篤信著 日用秘法の叢書 全一冊

北畠物語

芳陽軍記 全七冊

石見國孝子傳

石加守野村八郎著 孝子の徳の物語 全一冊

駿河の御行状書

駿河の御行状書 全一冊

馬療治調法記

馬のつとめ 針灸の法 全一冊

牛療治調法記

牛のつとめ 針灸の法 全一冊

馬療撮要

馬療治を要する 全一冊

牛科撮要

牛療治を要する 全一冊

集儀和書

徳川了本著 ひくま 全十六冊

寺子調法記

寺子調法記 全一冊

吾道大師行状記

尾形事六 全二冊

大光普照集

八事山人和著 ひくま 全三冊

品々有別目録アリ

仔細官細目録

仔細官細目録 全一冊

山諦忍和尚著速書

唐士奇談

全部五冊 繪入

唐士奇談の唐の康熙七年の事... (transcription of the vertical text)

天明八年 戊申孟冬

江戸書肆

大坂書林

京都書房

日本橋室町三丁目

須原屋市兵衛

心齋橋筋北太即町北江入

河内屋喜兵衛

西堀川高辻七町

梶川七郎兵衛